

研究課題名	免疫チェックポイント阻害薬の治療効果に影響を与える併用薬の検討
研究の意義・目的	免疫チェックポイント阻害薬（ペムブロリズマブ、ニボルマブ、アテゾリズマブ、デュルバルマブ、アベルマブ、イピリムマブ）は様々ながんの治療に使われます。胃薬（プロトンポンプ阻害薬）や抗生物質等を併用すると、免疫チェックポイント阻害薬の有効性が低下する可能性が報告されています。他にどのような薬剤が免疫チェックポイント阻害薬の治療効果に影響を与えるかが明らかになれば、併用薬による治療効果の低下を未然に防ぐことや、低下した治療効果を改善すること、治療効果に影響のない薬剤を選択することが可能になり、がん患者さんの予後の改善につながると考えます。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2026年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2015年8月~2021年12月に大阪公立大学医学部附属病院でペムブロリズマブ、ニボルマブ、アテゾリズマブ、デュルバルマブ、アベルマブ、イピリムマブいずれかの薬剤の投与が開始された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：【病歴、診断名、年齢、性別、喫煙歴、既往歴、治療歴、併用薬、診療記録】
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 薬剤部 (担当者氏名) 中務 ひとみ 電話番号：(06)6645-2277